しあわせをおくる人たち

寝た切り老人に春を 身内も及ばぬ心づかいで

◇市にホーム・ヘルパー制度ができ、家庭奉仕員（ホーム・ヘルパー）が選任されたのは、昨年七月のことでした。◇

◇このヘルパーさんたちが実際に訪問して、寝た切り老人や身障者の方々の身の回りの世話を始めたのは翌八月からで、六か月目を迎えようとしています。◇

◇そこで三人のヘルパーさんを囲んで、関係者の方々の声をきいてみました。◇

おくる人たち

パーは語る

語る人
北村合子
内百子
中村共子
岩崎照厳
清水易嘉
山本泰一郎

どんな仕事を主にしていますか

▼洗濯、縫い物、そうじ、買い物や雑用、炊事の手伝いなどが私たちのする仕事であって、悩みごとや相談もよく受けます。入浴させたり身体をふいたりすることは、保健婦さんでなければできません。

▼私たちヘルパーの訪問する方は、家族の都合で家族の人たちが世話することのできない気の毒な状態におかれている人たちです。とくに老人は孤独であり経済力もありません。僅かながらの恩給があっても身内のものに渡して、たばこ銭にもこと欠くといった本当にかわいそうな方たちです。

▼私たちが一番問題の多いと思うことに医療問題があります。生活保護を適用されている方はよいのですが、国保で医療を受けなければならないおとしよりは、家族に気兼ねして十分医療を受けておられないようです。

▼一人が六世帯を担当し、週二回、一日二世帯を訪問していますので、おとしより十二世帯、身障者六世帯が現在の対象世帯で一人世帯がその半数ほどあります。一番使う石けんや、洗剤は、社協で準備してくださっていますが、その世帯でかまえてくださっている方もあります。

一番つらいと思ったことは……

▼洗濯するのに井戸のないところや、水道の定額を超過するので谷川で洗ってほしいという家庭もあり、水が一番ほしいと思います。また、井戸の水の出が悪く、井戸ざらえをしたこともあります。とくに頭石や左右山は水に恵まれてなく、飲み水にもこと欠く家庭もあり、水を十分みたしてやりたいと思うことが度々です。

▼なんといっても冬の洗濯が一番つらく感じます。一家庭で五十枚あまりのおしめを洗うこともあります。洗濯機がないためシーツなど大きなものは家に持ち帰って洗濯し、のり付けをしています。

また、家族の理解度が少ない家庭もあり、おとしよりと家族との間に立つこともあって、ことばではあらわすことのできない精神的たくるしさも味わっています。

▼総体的に若い人たちは老人を嫌う世相ではないでしょうか、そのため老人が孤独化し、ひがんでゆくといったケースが多いように見受けられます。

私たちは老人をお世話をするといったことだけでなく、身内のものと話し合って、家族の方に世話をさす気をおこさすような指導もしています。

▼いままで娘むこに世話になっていた方が、県外の娘さんに世話になりたいという本人の希望で、夜間電話をしたところそのむこさんに大変立腹され、いろいろ話し合った結果、老人の希望によって、長女のこどもさんの世話になることになり、自分たちの手から放れていった例もあります。

▼逆に自分たちがうれしく思うことは、私たちの訪問を待ちかねていてくれることです。「どうしようたぞネ、もうきてくれないかと思いよった。」と涙を流してよろこんでくれることやとくに身体を悪くしているおとしよりのあしたを案じながら、次回に訪問して元気であったときは、我がことのように本当にほっとしてきます。

しあわせを

ホーム・ヘルパーは語る

▼訪問すればこどものように、つき回って話しかけ、家族に対するぐちや娘のこと、息子のことの話などをよくしてくれます。なかには嫁になってほしいというおじいさんもあって、困ったこともあります

▼おとしよりは、話や食べ物に飢えているようです。ことに寝た切り老人は不衛生になるため食べ物については十分注意を払っているようです。

あなたが訪問しだして変わってきたという家庭はありませんか

▼身内の人たち、家族の人たちが世話の足りなかったことを恥じ、世話をしだして、訪問しなくてもよい家庭もできました。

▼老人の住む、離れや部屋を締め切ってあることは、生活に追われる家庭にあって、寝た切り老人や身障者をみるための時間がないといった、経済的に止むを得ない家庭であるともいえます。

▼そのような家庭でも、これまでのことを反省し、できる世話をしだした家庭もあれば、ヘルパーに世話になる方がよいという立場でいる家庭、おとしよりの話を気にする家庭もあります。

北村さん

▼家族からはかくべつなことばもかけられないのに、訪問の途中、近所の人たちから「おかげでたずねていっても坐って話ができる。きれいにしていただいて有難い。」と感謝されたり、同情を寄せていただき、仕事に張りをもって、やっています。

▼おとしよりには独特の臭気があり、若い人たちはそれを嫌って、家族と離れた、声の聞こえない部屋に老人一人を寝さしている家庭がありますが、それは一番危険なことです。おとしよりは、もの音の聞こえる部屋に寝さすことが大切です。

それができないときは、押しベルなどなにかの設備をしておくべきです。

▼その実例ですが、ある日訪問したところ、土間で寝ているので聞いてみると、「昨夜、土間に転げ落ち、家族を呼んでも起きてくれなく、しかたなく寝巻き一枚で、そのまま一夜を過ごしていた」ということでありました。

十分注意してほしいものです。

市民に訴えたいことは

▼身障者で、とくに盲人の方は不幸だと思います。使い古したラジオか、携帯ラジオをぜひ贈っていただき、これらの人たちが世の中のことを知っていただきたいし、たのしんでもらえるようにしていただきたいものです。

島内さん

▼また、寝た切りの人たちにとって、おむつは大切なもので、あり余るといったことはありません。ぜひ古着や不用となった衣服などがありましたなら社協か福祉事務所へご寄贈願いたいと思います。

▼ことし特別養護老人ホームと重症心身障害児の養護施設が市内にできますが、施設に入ることをうば捨て山のように嫌うおとしよりが多いようですが、完全看護であり、家庭にいるよりずっと行き届いた世話をしていただけます。安心して入所してほしいものです。

そうした寝た切りの人たちの実情を民生委員なり、福祉事務所へ連絡していただくなどご協力をお願いしたいものです。

中村さん

行政上考えてゆかねばならないことは

▼世話をすれば世話のできる家庭など、福祉行政の充実により過保護にならないよう注意してゆきますが、現実に世話のできていない人たちには一時すくいの手をさしのべ、家族の指導をしてゆきたいと考えています。

▼この制度は当然のものではなく、身寄りもなく、世話をする方がいない人たち、また、家庭の都合で、家族全員が外にでて働かなければ生活を維持してゆけない世帯のためにつくられた制度です。

この趣旨を十分理解してもらうよう、家族の指導と社会への啓蒙を大切にしてゆきたいと考えています。

▼ヘルパーの方々に要する経費は、僅か二万円にみたない低い額に国がおさえており、ほかの市町村は、南国市よりも低い額の給与を支給し、残りを消耗品代にあてているようです。しかし、ヘルパーさんは目に見えない出費をしていますので、市は全額給与にあてています。

▼国からは手当と名のつくものはいっさい支給されてなく、昨年末には、市社協から年末手当として心ばかりのものを支給させてもらいました。四十五年度については国に対して、給与の増額、手当の支給を要求しています。

▼市社協としても念願のものであって、手始めの仕事として力を入れており、衣服手当を支給するとか、被服の貸与をするとか、ヘルパーさんを大事にすることを考えてゆくとともに充実してゆきたいと思っています。